

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 金沢市立三馬小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒 921 - 8164
金沢市久安6丁目154番地

E-mail : minma-e@kanazawa-city.ed.jp/minma-e/

Website : http://cms.kanazawa-city.ed.jp/minma-e/

児童生徒数：男子 399 名 女子 362 名 合計 761 名
 児童・生徒の年齢 7 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

3年 「地域の人と交流して学ぼう」

今年度は、昨年度までの取り組みに加え、「泉じょんから」や「虫送り太鼓」を教えていただく会や、「三馬むかしたんけん」など、地域の方と交流する機会を多く設けることができた。

学校の伝統である「三馬っ子音頭」を4年生から受け継ぎ、運動会や地域の夏祭り、朝日小との交流会等、多くの場で踊ってきた。そして、その伝統をこれからも受け継いでいきたいという思いを持つことができた。

地域の伝統である「泉じょんから」や「虫送り太鼓」について教えていただく会では、地域の方から、どのような思いでそれらの伝統を受け継いできたのかについてのお話を聞き、実際に踊ったり太鼓を叩いたりしながら、伝統を受け継ぐ人の思いについて知ることができた。

「三馬むかしたんけん」では、公民館や育友会の方と一緒に校区を探検し、三馬校区の歴史について学ぶことができた。さらに、そこで学んだことを、本校の140周年記念式典で発表し、他学年や地域の方に向けて発信することもできた。

「和菓子・茶道体験」では、校区にある和菓子屋さんを迎え、職人さんの巧みな技や工夫に感動し、和菓子のおいしさ、美しさを味わった。

これらの学習を通して、児童は自分の暮らす三馬校区について目を向けることができるようになり、さらに地域への関心を高めることができた。また、地域の方との接し方を通して相手の立場に立って考えることの大切さや伝統文化を通して、伝統を受け継いでいくことの大切さを実感することができた。



4年 「みんなが住みやすい町」

町には、いろいろな人が住んでいるので、赤ちゃんからお年寄りまで、障害のあるなしに関わらず全ての人にとって、＜三馬校区が住みよい町か＞調べた。

聴覚障害の方と手話で話したり、視覚障害の方から、便利な道具や教科書について教えていただいたりすることを通して、どちらも、相手のことを考えながら気持ちを伝えることの大切さを学んだ。疑似体験では、ブラインドウォークや車いす、高齢者体験などを行い、目が見えない恐怖や毎日の生活で苦勞することを肌で感じた。また、介助してくれる人の必要性や安全・適切に介助する難しさも知った。

この学習で学んだことから、自分達にできることやより住みよい町にするための案を考え、互いに交流し合った。



5年 「考えよう 三馬の環境を」

4月に伏見川へ出かけ、観桜を楽しむとともに、伏見川の様子を観察した。子どもたちは、伏見川に訪れる水鳥や川辺の草花などの自然に興味をもったり、河川敷や川岸のゴミの様子を見て驚いたりしていた。

三馬小では、毎年3月にサケの放流をしている。伏見川の様子を見た子ども達から、「本当にサケを伏見川に放流して良いのか」という疑問が出てきた。そこで、伏見川の観察を継続し、外部から講師を招いて、川の指標水生生物による水質検査とパックテストを行った。水質検査の結果、伏見川の水質はきれいであるということが分かった。しかし、伏見川にはたくさんのゴミが落ちていることから、今後も伏見川の環境を守っていきたいという思いをもった。

子ども達は、伏見川の水源である森林調査、上流の水質調査、漁業組合の方へのインタビューなど調べ活動を行った。さらに多様な方の伏見川への思いを知るため、上流、下流で活動している人、三馬校区に住む人の川への思いを映像教材を使って知った。三馬校区に住んでいる方の「昔の伏見川の氾濫が二度と起きないよう



に防災面をよくすることも大切にしてほしい」という思いを知り、環境を守ることと防災を進めることのどちらも大切にすることがこれからの未来に向けて大切だと気付いた。

子どもたちは、これからも伏見川的环境を守るために子どもたち独自で伏見川宣言を考え、地域の方に発信した。発信するときは、地域の方だけでなく、森林組合、漁業組合、市役所、川の専門家の方にも呼びかけてさまざまな方からご意見をいただいた。そして、これからも伏見川的环境を守るために、4年生にも川を守る活動を引き継いでほしいという思いを強くもつことができた。

6年 「共に生きる 未来に生きる」

「共に生きる」では、1年生との花見遠足やプール、なわとびなどの活動や、お年寄りとの音楽会を行い、いずれも相手のことを考えて話しかけたり、工夫して教えたり、優しさのある行動ができた。

「未来に生きる」では、働く意味やなりたい仕事の内容を調べ、自分の憧れの職業人に手紙を書き、来校や質問紙の回答をお願いした。そのうち、税理士やパティシエ、デザイナーなど22名の方が来校して下さり、また、多くの方から質問紙への回答をいただいた。その後、多忙な職業人の方がなぜ来校して下さったり、返事を下さったりしたのか考えさせた。子ども達は「ぼく達が期待されているから」「私達に夢を持ってがんばってほしいから」と答え、自分達たちが次の社会の担い手であることを意識させることができた。



職業について学習することで、自分の将来の夢を明確にし、夢に向かって毎日の学習や生活に取り組んだり、今の自分に必要なことは何かを見直したりすることができた。また、仕事をする上で「あきらめないこと」「相手を大切に思うこと」などの大切なことや働く人への感謝の気持ち、生きるすばらしさも感じていた。

職業についてパワーポイントにまとめ、5年生に発表した。

全学年での取組

本校では、全学年で食教育に取り組んでおり、加賀野菜や金沢近海の水産物の生産者を招き、金沢伝統の食文化にふれる学習も行っている。これらの学習を通して、金沢を大切に、伝統を守ることのすばらしさや出会った方の生き方や仕事に向かう姿勢、人との関わり方などを学んでいた。

児童会活動で、30年以上続く「オレンジ作戦」（奉仕の精神）では、今年もつながりを大切に、大震災の出来事を忘れないためにも、学年ごとにテーマを設定し、気仙沼市立鹿折小学校へメッセージを送った。また、今年もブルキナファソへ、文具などの支援を行った。そして、ブルキナファソの人々から届いたビデオレターを、「オレンジ集会」で視聴し、つながりを確認した。

成果

- ・学校や校区・金沢にある伝統や自然のすばらしさを知り、それらを受け継ぎ、伝え続けていくことの大切さに気づき、誇りに思う気持ちがより育った。
- ・子ども達は身近な地域の人から、お年寄り、園児、障害のある方、世界の人々など多くの人々とつながって共に生きるために、相手のことを考えながら行動することの大切さを学んだ。また、出会った方の生き方を通して、これからの自分の行動や将来の姿について考えたり、環境を守ったり改善したりしていかねばならないという思いを強くし、行動として表していく子どもも多く見られるようになった。
- ・ネットワーク作りについては、3年生の朝日小学校との踊りの交流、児童会での気仙沼市立鹿折小学校やブルキナファソとの交流など、昨年までのつながりを大切に、深めることができた。

課題

- ・東日本大震災から4年が経過し、被災地の様子は少しずつ変化している。それに伴い、鹿折小学校との交流の内容も吟味していく必要がある。
- ・これまで交流を続けてきた朝日小学校が今年度で閉校となったため、新たなネットワークを作っていく必要がある。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）